

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要

名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条12丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。 【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。		
事業概要	【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。 【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。		
主要施設	【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等 【札幌彫刻美術館】 本館：ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館：展示室1～4、ロビー		

2 指定管理者

名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を生かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。 彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的な管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。
指定単位	施設数：2施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務

3 評価単位	施設数:2施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。
--------	---

Ⅱ 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 【札幌芸術の森】 施設の設置目的と財団が策定した中期経営計画に基づき、第4期の基本方針を継承しつつ、検証、見直しを行い、札幌市文化芸術基本計画やその他の文化施策に対応し、次の5つの基本方針を策定している。 ①あらゆる人々が文化芸術に容易に触れることができる多様な事業展開(社会包摂の実践) ②様々なアートシーン、ステップに応じた担い手の育成・支援(すそ野拡大、人材育成) ③新たな切り口による魅力発信とにぎわいの創出(施設の利用促進) ④人々が集い交流する場、地域拠点としての機能の充実(場の提供、交流の輪の創出) ⑤安全で利用しやすい施設づくり(利用者目線の施設整備) 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、財団が策定した中期経営計画に基づき、次の4つの基本方針を策定している。 ①本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に関かれ、立地環境を生かした施設運営 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 【札幌芸術の森】 利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにしている。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。	札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。 本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。 関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。 関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。	A B C D 両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。 また、照明設備の間引きや待機電源の削減等、様々な節電等対策や環境に配慮した取組を行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引き節電に努めた。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に主催者手配により発電機を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電力の削減に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

省エネについては照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に努めた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理担当部長を配置している。

▼ 芸術の森美術館に、学芸員有資格を条件として採用した職員9人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

- ・4～6月
新採用研修、コンプライアンス研修
- ・6月
普通救命(AED)講習
- ・7月
安全運転講習
- ・9～10月
コンプライアンス研修
- ・9～11月
パソコン研修(Excel)
- ・12月
管理職マネジメント研修
- ・2～3月
情報セキュリティポリシー研修
- ・通年
防火管理講習
職長・安全衛生管理者講習

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な人員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館事業係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員2人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

- ・4～6月
新採用研修、コンプライアンス研修
- ・6月
普通救命(AED)講習
現場研修「共振」展
- ・7月
安全運転講習
- ・9～10月
コンプライアンス研修
- ・9月
現場研修「生命体の存在」展
- ・10月
防火管理研修
現場研修「藤原千也」展
- ・11月
管理職向け研修
- ・12月
現場研修「かく語りき本郷新」展
管理職マネジメント研修
自衛消防訓練
- ・2～3月
情報セキュリティポリシー研修
- ・3月
現場研修「彫刻の設計図リターンズ」展

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANIによるグループウェアを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。□

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANIによるグループウェアを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応と事前の利用者への確認等を円滑に行うことができた。集客イベント等の情報共有を園全体にもれなく行うことができ経緯を残せるため、園全体での混雑状況の把握や広報に生かすことができた。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。□

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

規程類に基づき、適切な契約を行った。
□
□

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼ 札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月25日)	(1)令和5年度管理運営業務の報告について (2)令和6年度管理運営業務の経過報告について (3)その他
第2回 (9月17日)	(1)管理運営業務の経過報告について (2)その他
第3回 (12月20日)	(1)管理運営業務の経過報告について (2)その他
第4回 (3月13日)	(1)管理運営業務の経過報告について (2)その他

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたる項目について、様々な分野の方々からご意見をいただいた。

<協議会メンバー>

地 域：芸術の森地区まちづくりセンター所長
 利用者：施設利用者
 有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、MICE団体
 ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア
 札幌市：市民文化局文化部長
 指定管理者：芸術の森事業部長

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (7月24日)	(1)各施設の重点取組事項について (2)使用料手数料の検討状況について情報共有 (3)予算編成時における文化部との連携について (4)札幌市文化芸術基本計画について(報告) (5)その他
第2回 (1月17日)	(1)今年度の予算執行見込と次年度予算について (2)次年度の事業展開について (3)令和7年度文化部予算について (4)料金改定について (5)在り方検討委員会の進捗について (6)その他

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 8月22日	・令和5年度事業報告 ・令和6年度事業経過報告(4～7月)
第2回 12月18日	・令和6年度事業経過報告(8～11月) ・令和7年度事業企画状況
第3回 3月19日	・令和6年度事業経過報告(12～3月) ・令和7年度事業企画状況
<協議会メンバー> 利用者団体:札幌市立大倉山小学校PTA 利用者団体:札幌彫刻美術館友の会会長 地元自治会:宮の森明和会会長 学識経験者:札幌市立三角山小学校校長 学識経験者:彫刻家 札幌市:市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者:芸術の森事業部彫刻美術館課長	

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者や専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に生かした。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) 【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。 ▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。	資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。
▽ 要望・苦情対応 【札幌芸術の森】 ▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内LANによるグループウェア等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。 また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるようにしている。 ▼ 創作普及課では、利用者の要望が多い木工房にて利用者との意見交換会を行い、運用改正などについて議論し、利用者の意見を運用に生かすなど要望対応に努めた。 また、陶工房、染織工房、版画工房の過去3年間の利用者に「工房利用アンケート」を行い、要望や意見等を聴取し、運用に生かすよう努めた。 ▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。 ▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。	来園者からの要望は真摯に受け止め、職員間で情報を共有し、可能なものは迅速に改善するよう努めた。 来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) 【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。 ・事業日誌等 ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 ▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。 ▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。 ▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。	業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。 施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。 施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。
--	---

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)					
			A	B	C	D
	【札幌芸術の森・本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。 ▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、4年計画で策定した次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。 ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、社会保険労務士事務所への委託により実施し、労働関係法令改正への対応についても、受託先の社会保険労務士と相談して行っている。 ▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。 ▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。 ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年(61歳)退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。 ▼ 木工房の管理運営に係る法令・通知・公示と安全衛生の工場や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に務めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、安全な工房管理に務めている。 また、令和6年度より法令に基づき、有機溶剤の取り扱いがある版画工房では講習を受講した専門職員による「化学物質管理者」を設置、また、初めて作業環境測定を行い、異状が無いことを確認した。 ▼ 労働災害・事故について、3件の労働災害が発生した。 ▼ 労働災害を防止するための対策として、衛生委員会や常駐業者も含めた施設ミーティングの中で注意喚起や必要な情報の共有を日常的に行うほか、職員に順次、労働安全衛生法による職長・安全責任者講習を受講させ、意識向上に努めている。	36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。 雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。 衛生委員会や産業医の職場巡視やミーティング等での日常的、継続的な注意喚起により、労災防止に努めた。	3件の労働災害が発生しているが、衛生委員会等による注意喚起や情報共有を日常的に実施することで再発防止に努めている。今後も職員の作業時の安全には十分に配慮し、事故防止のための職員間の意識共有を絶やさぬよう、安全教育を継続すること。 財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。			

(3)施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。 </td></tr> <tr> <td colspan="4"> いずれの施設も開設から相当年数が経過しており、老朽化が進む施設があることから、引き続き日常の点検業務に努められたい。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。				いずれの施設も開設から相当年数が経過しており、老朽化が進む施設があることから、引き続き日常の点検業務に努められたい。			
A	B	C	D												
両施設とも、施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。															
いずれの施設も開設から相当年数が経過しており、老朽化が進む施設があることから、引き続き日常の点検業務に努められたい。															
	【札幌芸術の森】 ▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行った。また、管理課職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を週に1回実施し、施設管理に係る情報の共有や安全意識を統一し、施設管理業務を実施した。 ▼ 施設内へのヒグマ進入防止のため、施設外周に電気柵を設置する対策を継続して行った。なお、電気柵の維持管理については、専門業者への保守点検の業務委託に加え、職員による目視点検を日常的に行うことで、柵の維持や異変の早期発見に注力した。 ▼ 冬季は、除雪業者と連携を図り、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないようにするとともに、安全の確保にも努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間で随時共有している。 ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。	利用者の快適性、安全性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。園内において利用者、職員、委託業者等が被害者となる事故が発生することがないように、注意喚起を講じながら業務にあたっている。													

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 利用者の安全については、本館、記念館敷地の巡視、館内モニターに常に留意することによって事故防止に努めている。
傾斜路である本館、記念館玄関アプローチでの冬季の転倒事故を防ぐため、営業時間内は路面状況の変化を常に注視し、除雪、氷割り、砂まき作業に即応した。

▼ 拾得物扱いについては、財団の拾得物マニュアルに従って届け出に迅速に対応し、利用者サービスの向上に努めた。

▼ 損害賠償保険は仕様に適合した施設賠償責任保険に加入した。

利用者の安全性、快適性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。

野外彫刻作品、及び大型の石膏原型作品等の防災・保全方法の研究を進め、状況に応じた対策を講じられるよう努めている

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) 【札幌芸術の森】 ▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保するよう適切に実施した。 緑地外構、機械設備、及び屋内屋外の美術館の管理業務など、合計47業務を第三者へ委託し、維持管理に務めた。 ▼ 主な修繕について ①工芸館 煙突修繕 ②クラフト工房 外階段タイル修繕 ③アートホール 機械室共用部系統冷温水配管 修繕 ④クラフト工房 重油タンク液面指示計 修繕 ▼ 河川の水を汲み上げる取水口に土砂が堆積し、取水ポンプが10年超利用できていなかったが、ポンプ場前の土砂を取り除き、修景池への流入量の改善を行った。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 本館、記念館施設、設備の維持、管理については適切に実施し、仕様書の水準を達成した。なお、警備業務、外構緑地管理業務は第三者委託により実施した。 ▼ 来館者用駐車場の陥没路面修繕、記念館展示室壁面の経年劣化で剥離したクロスの補修を行った。 ▼ 記念館の鉄製門扉について、5月30日に作品搬入委託業者トラックの接触による物損事故が発生したが、損傷は軽微で加害者の保険により原状回復した。 ▽ 防災 【札幌芸術の森】 ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・第1回消防訓練(総合訓練) 12月4日 ・第2回消防訓練(通報訓練) 3月13日 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 防災計画を策定するとともに、12月27日に自衛消防訓練を実施した。 ※本館ボイラー室からの出火を想定した総合訓練	日常的、定期的に清掃、機器点検、修繕、安全対策等の維持管理に務めた。 施設が安全利用できるよう法定点検、随時点検を行った。 水路、池等の清掃も行い、アオコや藻による臭気の改善に務めた。 仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。 状況に応じた適切な修繕を実施することができた。 職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。 職員の防災への意識を高めることができた。
--	---

(4)事業の計画・実施業務

【札幌芸術の森】

▽ 音楽・舞台芸術事業

▼札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ 2024

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催18回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。

①シアタージャズライブ

入場者数:3,159人

12月、高機能ホール「札幌文化芸術劇場hitaru」を会場に、舞台上にステージと客席を設け、6日間8公演を実施した。国内外で活躍する小野リサ、山中千尋をはじめ、札幌ゆかりのミュージシャンとして札幌ジュニアジャズスクール出身の馬場智章や北海道グループキャンプ出身の曾根麻央が出演し、盛況となった。

②市民交流プラザを活用した普及事業

入場者数:3,985人

施設間連携事業の一環として札幌市民交流プラザの機能を活用し、ジャズの入り口として身体が不自由な方を含む誰もが楽しめる「ユニバーサルジャズライブ」や、ランチタイムに無料で気軽にジャズを楽しめる「ランチタイムコンサート」、楽器初心者を対象とした楽器体験イベント「DoJazz! 見てさわって楽器体験!」を市民が行き交う1階のSCARTSコートで開催。札幌市図書・情報館とのタイアップによる「ジャズライブラリー」では、シアタージャズライブ出演者の推薦本の紹介や、来場者から好きな曲を集める参加型企画を開催した。

施設間連携を生かした特色ある事業として、多くの市民に一流のアーティストによる質の高いジャズ公演の鑑賞機会を提供。全8公演を通して公演満足度92%、接客満足度95%という高い評価をいただいた。

チケットが完売したユニバーサルジャズライブでは、身体が不自由な方が気軽に鑑賞できるように司会による解説をつけたほか、客席への動線やスペースを整えるなど工夫し、社会包摂を意識した運営を行うことができた。

また、複合施設である札幌市民交流プラザの機能を活用し、図書と音楽のコラボレーションによる特色ある展示企画を実施し、ジャズ音楽の裾野拡大に努めた。

A	B	C	D
両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。 サッポロ・シティ・ジャズでは、5年ぶりとなった海外プロモーションを再開したほか、札幌市内を中心に多様な公演を開催し、ジャズ文化の振興に努めた。 また、ジュニアジャズスクールは、次代を担う子どもたちへの発表や交流活動の貴重な機会の提供にとどまらず、当該事業の卒業生がシアタージャズライブ等の大型公演のステージに出演するなど、事業の継続による良い循環を生み出している。 芸術の森40周年記念事業ではアウトリーチ事業や他施設連携に取組み、工芸館では収蔵品を活用した展示を行うなど、施設の魅力を広く伝える事業に取り組んだ。 彫刻美術館では、本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した作品を芸術の森に設置したほか、受賞者の個展を実施するなど、			

③企業・団体とのタイアップによる事業

入場者数:64,894人

チ・カ・ホを会場とした「サッポロ・サウンド・スクエア」や、北ガスグループとのタイアップイベントである「創成East JAZZ」、札幌市役所での「市民ロビーコンサート」、札幌市のイベントである「ライラックまつり」、「さっぽろオータムフェスト」など、さまざまな企業・団体・イベントとタイアップし、地域のにぎわいを創出し魅力をアップさせるジャズライブを開催した。

さっぽろオータムフェストでの「食と音楽」をテーマにした無料のジャズライブ(入場者数:26,728人)や、商業施設コノススキノでのライブ、ルスツリゾートとのタイアップによる観光客に向けた100日間のロングランライブ(入場者数:12,000人)など、積極的に他イベントや異業種団体との連携に取り組み、ジャズ文化の普及と北海道観光の振興、札幌のまちづくりに寄与した。

多彩な事業を展開している。また、SCARTSと連携して彫美連続講座を行うなど、彫刻芸術の情報発信に努めている点は高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。

④海外プロモーション

入場者数:2,250人

サッポロ・シティ・ジャズ及び札幌市のPRと若手ミュージシャンの活動支援を目的として、サッポロ・シティ・ジャズパークジャズライブコンテストの優勝バンドを海外ジャズフェスティバルに派遣する事業。新型コロナウイルスの影響により渡航を延期した2019年～2023年の優勝5バンドをシンガポールの国際ジャズフェスティバル「Jazz in July」に派遣した。

5年ぶりにパークジャズライブコンテスト優勝バンドの海外派遣を再開し、シンガポールのジャズフェスティバル「Jazz in July」(入場者数:2,250人)に5バンドが2週にわたって出演。渡航費支援により、次世代のアーティストに発表の機会を提供した。

⑤ノースジャム“ピクニック”セッション

入場者数:1,192人

芸術の森野外ステージにて、2年ぶりとなる野外ジャズフェスティバルを開催。札幌ジュニアジャズスクール卒業生の松原慎之介カルテットや、北海道出身の佐瀬悠輔など、注目のミュージシャンや、ジャズの本場アメリカで活躍する若手実力派ミュージシャンによるSeiko Summer Jazz Camp 2024 All Starが出演した。会場内にはキッチンカーをはじめ、楽器体験や、ものづくり体験コーナーを設置し、約1,200人の観客がピクニック気分では楽しんだ。また、公演前日にはセイコーグループによる「わくわく音楽教室」をジャズスクールの小中学生対象に開催した。

▼ 次世代の文化芸術の担い手の育成・支援事業

①第25期札幌ジュニアジャズスクール

参加者数:41人(小学生20名、中学生21名)

25年目を迎えた当事業では、札幌芸術の森での毎週末の定期練習を中心に、市内外での演奏会への出演や、イベントでの演奏などの活動を通年で実施した。また、世界的ジャズピアニスト小曾根真や、Seiko Summer Jazz Campの講師陣によるワークショップや、ノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」のメンバーとの交流など、充実した活動を行うことができた。

②北海道ジャズの種プロジェクト

参加者数:56人

ジュニアジャズ活動の振興と地域の活性化を目的とした北海道ジャズの種プロジェクトでは、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、砂川市や留寿都村での合同合宿や、砂川市での合同演奏会「ともだちコンサート」を実施した。

③札幌芸術の森バレエセミナー2024

受講者数:111人(内22人は一般・指導者向け講座受講者)

見学者数:444人

若手ダンサー育成を目的として34回目を迎えた当セミナーは、パリ・オペラ座バレエ団教師のジル・イゾアールを主任講師に迎え、同団元エトワールのクレールマリ・オスタなど世界で活躍する講師陣を招き、クラシックからコンテンポラリーまでの充実したプログラムを揃え5日間にわたり開催した。期間中、過年度受講生でパリ・オペラ座団員の山本小春の公開レッスンを実施したほか、市民交流プラザ事業部との連携により、ジル・イゾアールによる公開講座をSCARTSコートで開催した。

北海道や札幌にゆかりのある若手ミュージシャンを市民に紹介するとともに、本場のジャズミュージシャンによる質の高い演奏に市民が気軽に触れられる機会を提供することができた。また、ものづくり体験コーナーは、創作普及課との連携により、芸術の森の特色を生かし、音楽とものづくりを楽しめる環境を提供することができた。

オーディションで選考された41名、また北海道ジャズの種プロジェクトでは道内4スクール、総勢56名の小中学生が活動に参加。定期練習や演奏活動、合宿や合同演奏会の開催、国際交流などを通して、次世代育成事業を充実させ、継続した。一年間の活動の締めくくりとなるファイナルライブでは、25周年の記念楽曲をデビッド・マシューズと共演、前日のミュージックランブとあわせ約1,000人が来場した。

世界レベルの丁寧な指導を受けられる機会を提供し、全国から111人の受講者が集まった。受講者・関係者から高い評価をいただき、次世代を担う若手ダンサーたちの育成と支援に貢献した。また、「hitaruバレエプロジェクト」との連携事業では、広く事業をPRし、芸術の森まで足を運んだことのない客層の獲得することができた。

④北海道グループキャンプ

受講者数:38人

入場者数:194人(Final Live)

現代音楽における世界最高峰のアメリカ・バークリー音楽大学から主任講師としてタイガー大越ほか現役教授3名を招へいし、6日間の集中セミナーを開催した。初めてOB講師として同セミナー出身の馬場智章を迎えた。

全国、また韓国から38名の受講生が集い、最終日には成果発表としてFinal Liveを開催。特に優秀と認められた受講者3名には、バークリー音楽大学のサマープログラムに奨学生として参加できる「バークリー賞」、次回の北海道グループキャンプに無料で参加できる「グループキャンプ賞」を2名に授与した。

また、セミナーに先立ち、タイガー大越による特別ワークショップを札幌ジュニアジャズスクール中学生クラスの希望者を対象に実施した。

日本国内でバークリー音楽大学のメソッドを現役教授から受けられる貴重な機会として、また、同世代の志を共にする仲間との交流の場として、セミナーを継続することができた。

OB講師の存在が受講生のモチベーションを大きく促進させ、バークリー賞の授与により、ステップアップ、次への飛躍の機会を与え、次世の代育成に大きく貢献することができた。

▼芸術文化を通した市民活動の促進

①パークジャズライブ

入場者数:46,572人 参加者数:197バンド

プロ・アマ不問で市民ミュージシャンに広く発表の機会を与え、音楽による市民活動を促進し、市民文化を醸成することを目的として、全国から出演者を募集し、7月に2日間にわたり市内10会場で無料ライブを開催した。

また、サッポロ・シティ・ジャズ全体を支える市民ボランティア「ジャズセーバーズ」を組織し、パークジャズライブやシアタージャズライブなど各イベントの運営を支える活動を行った。

2日間で197組の参加者が出演し、運営を支えるボランティアには男女問わず10代～80代まで189名が登録。「札幌がジャズの街になる」をテーマに市民が出演するだけでなく、運営スタッフとしてイベントを成功させ、市民の文化活動を促進し、魅力的な街づくりに繋げることができた。

▼質の高い文化芸術の創造・提供

①シアタージャズライブ [再掲]

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数 : 9本

総入館者数 : 123,103人

(自主事業「▼札幌美術展 マイ・ホーム(仮)」を含む。)

①遠藤彰子展 生生流転

会 期 令和6年4月6日(土)～6月16日(日) 69日間
 入場者数 8,526人

人々の営みや自然の驚異が細部まで丹念に描き込まれた大作を生み出す画家・遠藤彰子(1947-)の個展を開催。「人間の存在」や「今生きている実感」といった普遍的なテーマを最大で約3.3×7.5mにも達する大きさで描き続けてきた油彩の「大作シリーズ」を中心に、立体や新聞連載小説の挿絵を含む75点の作品を通しておよそ50年にわたる活動の軌跡を紹介した。

来館者からは「写真で見るものと印象が違った。実際に見ることが出来て圧巻だった」「1つの絵に様々な物語があるように見え、それぞれが塊となって1つの絵として成り立っており感銘を受けた」「美術館ならではの鑑賞ができて満足。各作品の説明に作家自身の言葉があり、作品や作家への理解につながり、とても良かった」という声が聞かれた。また、アーティストトークでは、展示室を巡りながら作家が制作背景や秘話を語り、ワークショップでは作家からのレクチャーや講評を通じて、さらに充実した鑑賞機会を観覧者へ提供することができた。

②水木しげるの妖怪百鬼夜行展 ～お化けたちはこうして生まれた～

会 期 令和6年6月29日(土)～8月25日(日) 58日間
 入場者数 51,296人

代表作『ゲゲゲの鬼太郎』をはじめ多くの妖怪作品を生み出し、現代の日本人に妖怪文化を定着させた漫画家・水木しげる(1922-2015)。本展は水木の生誕100周年を機に企画され、これまで開催されてきた数ある水木しげる展の中でも初めて、妖怪画が作られる具体的手法に注目。水木が所蔵し、参考にしていた妖怪関係資料を初公開したほか、水木しげるの妖怪画100点以上を一挙に展示した。

未就学児から70歳以上まで、幅広い層に来場いただき、普段美術館に訪れる習慣のない人々にも足を運んでいただけた。来館者からは「水木の画業のみならず、妖怪研究の変遷や日本の民俗史についても知ることができた」「読み応えがありながら分かりやすい解説だった。作品の展示方法や照明が良く、作品世界に没入できた」といった声をいただき、価値ある鑑賞機会を提供することができた。

③国立西洋美術館 内藤コレクション 西洋の写本—
いとも優雅なる中世の小宇宙
会期 令和6年9月7日(土)～9月29日(日) 23日間
入場者数 6,552人

国内美術館最大級の写本コレクションである国立西洋美術館 内藤コレクションの中から、本から切り離された1ページ(リーフ)として後世に伝わった聖書や時祷書、聖歌集などの142点を展示。また芸術の森美術館独自の取り組みとして、個々の作品に写本の基礎知識や制作当時の時代背景などを記した絵解きパネルを添えた。

④フィロス・コレクション ロートレック展 時をつかむ線
会期 令和6年10月12日(土)～令和7年1月5日(日)
73日間
入場者数 21,036人

19世紀末パリで活躍した画家アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックのグラフィック作品の世界最大級の個人コレクションであるフィロス・コレクションから262点を展示。ロートレックの代名詞である多色刷りポスターのほか、「1点もの」の素描、手紙や写真などの資料も豊富に展示し、画家の内面に迫った。

中世ヨーロッパの写本を札幌でまとめて展示するのは今回が初めてとなり、貴重な鑑賞の機会を提供することができた。また、個々の作品に絵解きパネルを添え、年齢や知識のあるなしにかかわらず多くの人々が作品を楽しむことができるよう工夫を凝らした。来場者からは「札幌でこのような機会があつてうれしい」「実物を見てはじめて気付く美しさがあった」「解説がわかりやすかった」との声が多く寄せられた。

本邦初公開となる個人コレクションによるロートレック作品を展示し、北海道民・札幌市民に質の高い芸術体験を提供した。来場者からは「素描や手紙などを見られて内容が濃い」、「ロートレックの生涯と当時のパリの様子がわかりやすく紹介されている」との感想が得られた。あわせて体験型の関連事業などを実施し、より充実した鑑賞体験を提供した。

⑤札幌美術展 マイ・ホーム(仮)

会期 令和7年1月18日(土)～3月9日(日) 44日間

入場者数3,473人

札幌・北海道にゆかりの作家を紹介する「札幌美術展」の第17回。本展では「ホーム」の流動性や不安定さに着目し、暮らし、制度、ルーツ、コミュニティーなど、「ホーム」を形づくる様々な要素をテーマとした作品を展覧した。出品作家は、葛西由香、小林知世、武田浩志、田中マリナ、長坂有希、南阿沙美、米坂ヒデノリの7名。

「ホーム」の流動性、不確実性をテーマに、北海道・札幌ゆかりのアーティスト7名それぞれの「ホーム」に対する思いや考えが、さまざまな手法で表現され、充実した展覧会となった。来館者からは「新しいアーティストとの出会いがあり、満足」や「作家さんの見せたい風景が様々で面白かった」などといった、現代の作家による多様な表現を紹介した点を評価する感想をいただいた。

⑥所蔵品展 一つの時代、二人の女流画家 #岸葉子 #八木伸子

会期 令和6年4月6日(土)～6月16日(日) 69日間

会場 B展示室

入場者数 8,356人

道内出身女流画家の岸葉子(1923-2023)と八木伸子(1925-2012)は、画業の初期にあたる1950～60年代当時、抽象表現主義の技法を貪欲に取り入れながら、自己の表現様式を探究すべく試行錯誤を続けていた。本展では、この時代の作品を後の時代の傑作に繋がる過程としてではなく、若き日の二人でしか描きえなかったもう一つの優れた作品群であると新たに捉え直し、油彩10点を紹介した。

同時開催の「遠藤彰子展」アンケートに「B展示室の作品(本展出品作品)も良かった」という感想が寄せられ、満足度は概ね高かったと考えられる。また、アンケートでは、八木保次・伸子夫妻の作品をもっと観たいという趣旨のコメントも見受けられた。本展の開催を通じて、地域作家の仕事を紹介する展覧会のニーズも把握することができた。

⑦艾沢詳子Happy Re-Birthday to FUKUSHIMA + SAPPORO 2024

会期 令和6年9月7日(土)～9月29日(日) 23日間

会場 B展示室

入場者数 5,641人

2023年度に当館に新たに収蔵された、札幌を拠点に活動する版画家・艾沢詳子(1949-)による作品のうち、2011年の東日本大震災とそれに起因する福島第一原子力発電所事故により、親しんだ場所を離れ他所へと移り住まなければならなかった避難者をテーマとしたインスタレーション作品《Happy Re-Birthday to FUKUSHIMA + SAPPORO》に新たな要素を加えて再構成し、紹介した。

「オリジナル作品の再現にとどまらず、作家を招聘し新たな要素を加えて再構成することでより質の高い展示を提供することができた。来館者からは「彩度がない世界なのに感情と生命力が溢れている」、「鑑賞者の数だけ解釈が存在する作品」との感想が得られた。

⑧砂澤ビッキアーカイブ経過報告展

会期 令和6年10月12日(土)～令和7年1月5日(日)

会場 B展示室

入場者数 14,189人

木彫家・砂澤ビッキ(1931-1989)は、旭川に生まれ、独学で彫刻や絵画を学び、阿寒湖畔や鎌倉、札幌で活動を行った。1978年からは音威子府の旧小学校をアトリエ兼住居とし、《四つの風》(1986年、札幌芸術の森野外美術館設置)に代表される神秘的でダイナミックな木彫作品を制作している。

本展では、札幌芸術の森美術館で2018年から継続している調査研究活動「砂澤ビッキアーカイブ」の最新情報を、素描や彫刻の小品を交えながら紹介した。

当館の研究機関としての側面を来館者に知らせるとともに、最新の研究成果を提供することができた。来館者からは「作者が身近な存在に感じられた」「貴重な資料を見ることができてよかった」との声をいただいた。

⑨生誕120年 入門・本郷新一彫刻家が遺した愛

会期 令和7年1月18日(土)～3月9日(日) 44日間

会場 B展示室

入場者数 4,034人

札幌出身の彫刻家本郷新(1905-1980)は、日本全国の公共空間に多数の野外彫刻を制作、設置したことから「戦後野外彫刻の第一人者」と評されている。本展は生誕120年を記念し、本郷新記念札幌彫刻美術館所蔵作品より初期から晩年までの作品を厳選し、本郷新の入門編として彫刻家の生涯を回顧した。最期まで彫刻家であろうとした本郷の彫刻への愛を、遺された作品を通して紹介した。

作品とともに詳細な解説パネルを掲示し、代表的な野外彫刻についても写真付きで紹介することで、「あの場所の作品も本郷新だったのかと驚いた」、「もっと作品を見るため札幌彫刻美術館にも訪れてみたい」という感想が得られた。同館の紹介文とパンフレットを設置することで、施設間の連携と利用促進を図った。生誕120年の節目にもあたることから複数の報道機関より取材を受けるなど一定の注目を集めることが叶い、作家の顕彰と作品の幅広い紹介に結び付いた。

▼ 野外美術館

期日: 令和6年4月27日(土)～11月4日(月・休)

入場者数: 52,740人

※8月3日からは謎解きイベント「時紡ぐミュージアムの約束」を併せて実施した。

来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア29名による作品解説を行った。また、野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる子ども向けの「シールマップ」を販売した。加えて、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

野外彫刻の常設展示を開園以来継続しつつ、研鑽を積んだボランティアによる安定した作品解説サービスが好評であることに加え、イベント実施や工夫された様々な鑑賞サポートツールの提供により、利用促進に努めた。

▼ 教育普及に関する事業

[佐藤忠良子どもアトリエ]

当財団の中期経営計画の重点取組項目である子どもたちの芸術文化活動の充実に取り組む事業として、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした所蔵品を展示するとともに、子どもを主な対象としたワークショップの企画・実施をした。

＜スプリングフェスタ特別ワークショップ「ねんどで彫刻」及び「ねんどで彫刻 テイクアウト」＞
「芸術の森スプリングフェスタ」の特別企画として、講師がつきそわず、ねんどで自由に彫刻をつくるワークショップを開催した。また、自宅でも制作できるようテイクアウトセットを販売した。

期日 令和6年4月27日(土)

参加者数 44人(ねんど販売数:38個)

＜夏休み特別ワークショップ「まんがのぺんでお絵かき」＞

漫画家が使う道具を用いてペン入れ体験を行うワークショップを開催した。使用したペン軸、ペン先、原稿用紙は持ち帰ることができ、自宅でも引き続き制作ができるようにした。

期日 令和6年8月7日(水)～8日(木)、14日(水)～15日(木)、21日(水)～22日(木)計6日間、12回

参加者数 63人

＜特別ワークショップ「ねんどで彫刻 テイクアウト」＞
「まんがのぺんでお絵かき」と並行して、自宅でもねんど

彫刻が制作できるテイクアウトセットを販売した

期日 令和6年8月7日(水)～8日、

14日(水)～15日(木)、21日(水)～22日(木)計6日間
販売数:27個

＜冬休み特別ワークショップ「ちびっこ油絵」＞

道具や画材を提供し、F4サイズのキャンバスに自由に絵を描くワークショップを開催した。また同時に額縁の販売を行い、額装による見え方の違いも体験してもらった。

期 日: 令和7年1月11日(土)～13日(月・祝)、1月16日(木)～18日(土)計6日間、12回

参加者数:56人

▼ 芸術の森40周年記念事業

事業数:5本

総入場者(参加者)数:5,430人

札幌芸術の森の開園40周年を記念して令和8年度に開催予定の大規模美術展「Flowering Garden—花降る森—」に先立ち、一連のプレ事業を行った。

夏休みは主に小学生向け、冬休みは低年齢の子どもでも体験できるワークショップを開催したが、どちらも好評で、定員を超える数の応募があった。

4月に開催した「ねんどで彫刻」は、子どもから大人まで幅広い参加があった。予約なしで気軽に参加でき、好きな時間に体験できる点が好評であった。

表現方法による効果の違いに気が付き、漫画への興味が深まったという声が聞かれた。新規利用者も多く、施設や園自体を知ってもらうよい機会となった。

夏休み特別ワークショップと同時に販売したことで、帰宅後も引き続き制作をしたい子どもや家族に好評であった。

月に一度開催してほしいという声も聞かれた。短い制作時間でも、様々な技法を使うことで完成度が上がり、参加者の満足度に繋がった。

一連の事業を通じて、広く市民に美術・音楽や芸術の森への関心を喚起する機会をつくるとともに、事業を通して地域の小学校や財団他施設とのつながりを深めることができた。

①マイ・ガーデン

期日: 令和6年9月6日(金)~12月22日(日) 54日間

※大ホール公演日のみ開催

会場: 札幌コンサートホールKitara 大ホール内 Kitara ギャラリー

入場者数: 1,453人

コンサートホールとの連携により、自然の移ろいやその中でつかの間の休息を楽しむ人々をテーマとする、北海道ゆかりの作家6名の作品をKitaraギャラリー内で展覧した。

出品作家: 葛西由香、小林知世、武田浩志、田中マリナ、長坂有希、南阿沙美

【関連事業】マイ・ガーデン アーティストトーク

期日: 令和6年11月2日(土)

会場: 札幌市民交流プラザ 1F SCARTSコート

参加者数: 24人

②珣ルガンアウトリーチコンサート

期日: 令和6年9月11日(水)

会場: 札幌市立小野幌小学校

参加者数: 87人

講師: 吉村玲子

コンサートホールとの連携により、オルガニストの吉村玲子を講師に迎え、パイプオルガンの仕組みの解説とともに、芸術の森にちなんだ曲も含めてポジティブオルガンの演奏を行った。

③札幌芸術の森 おはなしコンサート

期日: ①令和6年9月12日(木) ②令和6年9月13日(金) ③令和7年1月23日(木) ④令和7年1月24日(金)

会場: ①札幌市立宮の森小学校 ②札幌市立芸術の森小学校 ③札幌市立上白石小学校 ④札幌市立幌東小学校

参加者数: ①85人 ②78人 ③67人 ④57人

講師: ①②金子三勇士 ③④中川健一

子どもたちに音楽と美術に触れる機会を提供し、芸術に対する親しみを醸成するとともに、札幌芸術の森への関心をもってもらうことを目的に、市内小学校4校でアウトリーチコンサートを実施。講師が野外美術館の作品にちなんだ楽曲を野外美術館の映像とともに演奏し、芸術の楽しみ方やピアノの仕組みについてわかりやすくお話しした。

④田どもアトリエ 山木将平ライブ「音でみる」

期日: 令和6年11月3日(日・祝)

①14:00~14:40 ②15:00~15:40

会場: 佐藤忠良記念子どもアトリエ

入場者数: ①55人 ②51人

開園40周年に向けて、野外美術館の新たな楽しみ方を提案するため、佐藤忠良記念子どもアトリエを活用し、ギタリストの山木将平を招いたギターライブを開催した。展示室内にラグマットを敷き、演奏とともにゆったりと彫刻作品の鑑賞を楽しめる工夫を行った。

コンサート事業に参加した児童からは、プロの音楽家による演奏を目前に体験したことの感動を語る声が多く寄せられるとともに、演奏の合間のお話を通して、芸術や芸術家に対する親しみを感じてもらうことができた。

また、「おはなしコンサート」の参加者には、「ハロー！ミュージアム」で芸術の森に来園したことのある児童も多く、ピアニストの演奏と野外美術館の作品の映像の組み合わせによる新たな鑑賞体験により、「芸術の森にまた行ってみたい」という感想につながった。

「マイ・ガーデン」展では、複数の文化施設を運営する当財団の利点を生かして、札幌コンサートホールや札幌市民交流プラザと連携を図り、音楽ファン層に美術を届ける試みが可能となり、広報面でも相互に協力を行うことで、来場者層の拡大につながった。

⑤マイ・ガーデン カム・ホーム

期日:令和7年1月18日(土)～3月9日(日)

会場:札幌芸術の森美術館

入場者数:3,473人

コンサートホールの来場者を対象に開催した「マイ・ガーデン」展の鑑賞機会をより広げるため、「札幌美術展 マイ・ホーム(仮)」との同時開催で、「マイ・ガーデン カム・ホーム」として再展示を行った。

出品作家:葛西由香、小林知世、武田浩志、田中マリナ、長坂有希、南阿沙美

▽ 工芸・工房事業

▼ 第24期工芸作品展示事業

クラフト作家への展示・販売機会の提供、使い手となる市民への良質なクラフト作品の紹介と購入できる場の提供を目的に、工芸館展示ホールにおいて、札幌圏を中心とした道内クラフト作家の作品を展示販売。令和6年度は2期に分け、季節をテーマに展示作品の入れ替えを行った。

今年度の出品作家は北海道内で活動する48人。

また、工芸作品の一部を芸術の森ホームページにてオンライン販売し、35,365円の販売実績があった。

会期:令和6年4月27日(土)～令和6年8月25日(日)、令和6年9月14日(土)～令和7年3月9日(日)
※11月19日～3月26日の冬期間は土日祝日の開場

会場:工芸館展示ホール・クラフトギャラリー「ベストポケット」

幹旋販売額:6,093,671円(令和5年度実績:4,970,310円)

入場者数:37,194人(令和5年度実績:67,088人)

▼ 工芸館コレクション展

工芸館のコレクションから作品12点を選出し、ベストポケットと併設展示した。1990年代から2010年にかけて手作りクラフト作品を募集した全国規模の公募展の過去入賞作品を公開。

会期:令和6年12月5日(木)～令和7年3月9日(日)

会場:工芸館展示ホール

入場者数:3,839人(上記期間における「ベストポケット」入場者数)

SNSにて出品作家を日替わりで紹介するなど、広報に務めた。

工芸館の入口や休憩スペースなどの装いを滞在しやすい雰囲気となるよう工夫した。

また、インバウンド需要の増加等により昨年度よりも販売上額が増加した。

また、工芸館の収蔵品を整理し、久しく公開されていなかった作品を広く鑑賞していただく機会を創出した。

▼ 工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、ものづくりを愛好する人の裾野拡大と技術習得・向上を目的とした講習会を通年で開催した。陶芸、テキスタイル、手織、木工、七宝、ガラス、版画の各分野で、個人向けの講習会と団体向けのグループ講習会、また予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」に加え、作家を講師に招いたワークショップや木工房の大型製材機経験者を対象とした大型製材機安全講習会を開催するなど、初心者から上級者までの幅広い層を対象としたプログラムを実施した。

また、ゴールデンウィーク、芸術の森バースデー、夏・冬休みには子どもが参加できる講座を増やし、多くの子どもの参加を促進した。

また前年度に引き続き気軽に制作体験できるキット「うち de クラフト」をクラフト工房窓口やオンラインストアなどで販売し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験できる機会を創出した。

(令和6年度は2種を販売し、完売した)

会期: 令和6年4月～令和7年3月

会場: クラフト工房(大・中・小制作室)、木工房、織工房、染工房、版画工房

講習会総実施回数: 329回(前年度実績: 382回)

講習会総受講者数: 4,466人(前年度実績: 4,671人)

ふらっと体験参加者数: 1,665人(前年度実績: 3,171人)

(織機でコースター体験を含む)

ものづくり制作体験キット販売個数: 49個(前年度実績: 294個)

▼ アウトリーチ事業

①札幌市民交流プラザ2階 SCARTSスタジオにて「札幌芸術の森クラフトキャラバン『秋のアトリエ』」を開催し、気軽にものづくりを体験できる場の提供や芸術の森のPRを行った。

会期: 令和6年10月5日(土)、6日(日)

実施回数: 1回(令和5年度実績: 1回)

実施人数: 122人(令和5年度実績: 54人)

②North JAM Picnic Session 協力事業「なつやすみワークショップ」

ブースを設け、小さな子どもから大人まで、ものづくりを楽しめる機会を提供した。

会期: 令和6年8月25日(日)

実施回数: 1回

参加人数: 35人(令和6年度初めて開催)

講習会は製作体験に留まらず実際に暮らしの中で使える内容で実施した。芸術の森園内及び市内の公園で剪定した季節の樹木を活用して染色をする講習会等、他団体(札幌市公園緑化協会)と連携した企画を行うことができた。

また、美術館展覧会「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」にあわせて開催した妖怪をモチーフにした陶芸、木工、金工の講習会は美術館関連企画として好評を博した。

夏・冬休みの時期には子どもを中心に、未経験でも楽しく参加でき、自由研究にも役立てるメニューを工夫したことで、多くの親子連れなどで賑わいをみせた。

工芸分野の普及事業の一環でアウトリーチプログラムに取り組んだ。市内公共施設のほか、今年度は初めて主催事業の野外ステージのジャズライブにあわせて、音の出る木のおもちゃや布製のうちわ作りなどのワークショップを開催し、制作体験の機会を広く創出することができた。

▽ その他の文化芸術事業

▼ 芸術の森アートマーケット

札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

多くの出店者により賑わいを創出することができた。全6回で延べ1,282人の入場者に足を運んでいただくことができた。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

各種団体共催・施設利用促進事業

入場者数:2,903人

芸術の森施設を活用し、各種団体との共催事業を実施。アートホールでの「Sapporo 未来 Jazz 2024」や、野外ステージでのダンスミュージックフェス、芸術の森の自然風景を生かしたコスプレイベントなどを共催により実施した。

共催事業として音楽事業のほか芸術の森園内を活用したイベントを実施し、芸術の森の魅力発信と文化事業振興に貢献した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数16,361人
(本館12,399人、記念館3,962人)

●特別展

【本館】

下記の展覧会を開催した。

①「共振—本郷新+北海道の現代アーティスト」

会期: 令和6年6月15日(土)～9月16日(月・祝)

81日間

入場者数: 2,288人

②「第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 藤原千也展」

会期: 令和6年10月5日(土)～令和7年1月26日(日)

93日間

入場者数: 1,905人

③「札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展」

会期: 令和5年9月16日(土)～令和7年5月25日(日)

514日間(令和6年度304日間)

入場者数7,162人(令和6年度4,172人)

④「さっぽろ雪像彫刻展2025」

会期: 令和7年1月24日(金)～26日(日)

3日間

入場者数: 1,265人

●アウトリーチ展示

①さっぽろ雪まつり出品「雪像彫刻 from 本郷新記念札幌彫刻美術館」

会期: 令和7年2月4日(火)～11日(火・祝)

8日間

会場: さっぽろ雪まつり大通5丁目会場

入場者数: 1,770,000人(第75回さっぽろ雪まつり大通会場来場者数)

特別展の「共振」展では、現代のアーティストに、本郷新の作品と改めて向き合ってもらい、互いに響き合う作品を制作してもらうことで、本郷芸術の今日的な価値を見出し、新たな魅力を伝えることができた。

「藤原千也展」では、本郷新記念札幌彫刻賞受賞作家のいくつかの作品展示を通して、作品に込められた深い思いを伝えることとなった。

「さっぽろ雪像彫刻展」では、雪まつりの雪像とは異なる雪を素材とした彫刻としての雪像を制作展示し、雪国ならではの展覧会とした。

また、さっぽろ雪まつりにおいても、雪像彫刻を5基を制作展示することで、国内外の多くの方にその魅力と当館の存在と活動を知ってもらうことができた。

●コレクション展

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。

①「コレクション展 石と木」

会期：令和5年4月29日(土・祝)～令和6年5月26日(日)

327日間(令和6年度48日間)

入場者数：3,563人(令和6年度436人)

②「コレクション展 2024-2025」

会期：令和6年6月1日(土)～令和7年5月25日(日)

295日間(令和6年度259日間)

入場者数：3,526人(令和6年度)

【本館】

①「コレクション展 かく語りき本郷新「彫刻は詩の塊だ!」

会期：令和6年1月19日(金)～5月26日(日)

136日間(令和6年度48日間)

入場者数：988人(令和6年度535人)

②「コレクション展 本郷新 彫刻の設計図リターンズ」

会期：令和7年3月8日(土)～5月25日(日)

68日間(令和6年度20日間)

入場者数：148人(令和6年度)

収蔵品展では、本郷新を新たな切り口で紹介し、その魅力を多くの人に知ってもらうことができた。

記念館では、よりわかりやすい展示とするため、解説パネルを増やすなどの工夫をした。

本館では、「かく語りき本郷新」において、本郷新が書き残した数多くの文章から、その造形的思考や精神を作品とともに紹介した。また、「彫刻の設計図リターンズ」では、屋外彫刻の設計図面やスケッチなどを展示し、完成にいたるまでの過程などを紹介した。

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第4回)

・受賞作品展示

会期：令和6年6月29日(土)～令和9年4月

会場：札幌芸術の森美術館中庭

▼ 本郷新の調査研究

・本郷新の自著文献のデジタル化

・本郷新関係の文章の執筆、寄稿

・コレクション展、土曜講話などでの研究成果の発表

受賞作品を美術に興味をもつ市民が多く訪れる美術館に展示することで、本郷新やこの賞について広く知ってもらうことにつながった。

また、関係資料などをもとに本郷新についての研究をさらに深め、展覧会や講話、寄稿を積極的に行った。

▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等の実施に関する業務

●北海道銀行本店レリーフ「大地」制作記録映像「三人の手」上映会
参加者数:145人
会場:札幌市民交流プラザ

●彫美連続講座
実施回数:3回
参加者数:355人(会場聴講262人、オンライン聴講93人)
会場:札幌市民交流プラザ(オンラインでも配信)

●造形教室
・夏休み造形教室
参加者数:19人
・冬休み造形教室
参加者数:37人

●館長の土曜講話
実施回数:15回
参加者数:377人

●札幌おしゃべり美術部
実施回数:2回
参加者数:9人

彫美連続講座や記録映像上映会などにおいて、彫刻に関するタイムリーで話題性に富んだ内容を取り上げることで、多くの参加者を集めることができた。彫美連続講座のオンライン配信も好評であった。また、「館長の土曜講話」を頻繁に行うことによって、彫刻に対する理解とともに、当館に対する愛着を深めることができた。新たに始めた「札幌おしゃべり美術部」では、作品をじっくりと観察したうえで、報告レターをつくるところまでを行い、深い鑑賞につなげることができた。

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業 ▼ 促進事業 ● サンクスデー 実施回数: 2回 入館者数: 601人(夏310人、秋291人) ▼ 学校協力 ● 学芸員資格取得希望の大学生を対象とした博物館実習(館園実習)の受け入れ 参加学生数: 大学4年生4人(6日間) ● 市立三角山小学校3年生の年度作品・ポスター展示 参加児童数: 43人 ● 札幌西高等学校美術選択1年生展覧会鑑賞 参加生徒数: 92人 ● 札幌市立啓明中学校職場体験の受け入れ 参加生徒数: 7人 ● 札幌市立宮の森中学校3年生展覧会観覧 参加生徒数: 29人 ▼ ボランティア活動の受け入れ 「ハロー！ミュージアム」で児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、本郷新の自著をデジタル化する作業を「資料整理ボランティア」の協力のもと行った。 ▼ 連携事業 財団他施設との連携 ・ 札幌文化芸術交流センター SCARTSとの連携 「彫美連続講座」や記録映像上映会の実施、展覧会設営時における技術面での協力 ・ 札幌芸術の森美術館との連携 第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品の展示、及び完成記念事業の実施	サンクスデーでは、展覧会観覧料を無料にするだけではなく、札幌彫刻美術館友の会、札幌アートコミュニケーターズなどの協力を得てさまざまなプログラムを実施することで、多くの来場者を迎え、当館の魅力を広く知ってもらう機会となった。 また、近隣の小中高に積極的に働きかけ、来館してもらう機会を増やした。 さらに、ボランティアに活動の場を提供した。 財団内の施設間連携では、単なる場所の提供だけではなく、それぞれの職員の能力を生かした協力関係のもと、事業を実施した。
--	---

(5)施設利用
に関する業
務

▽ 利用件数等

【札幌芸術の森】

・施設の利用状況

		R5実績	R6計画	R6実績
アート ホール アリーナ	件数(件)	243	229	233
	人数(人)	20,128	17,505	26,161
	稼働率(%)	67.9	69.9	65.3
アート ホール 練習室	件数(件)	2,215	1,887	2,293
	人数(人)	16,573	13,855	15,827
	稼働率(%)	61	58.9	64.2
野外 ステージ	件数(件)	40	37	36
	人数(人)	13,590	10,763	16,223
	稼働率(%)	21.2	37.6	19
各種 研修室	件数(件)	3,590	3,151	3,665
	人数(人)	4,456	3,821	4,582
	稼働率(%)	69.6	69.6	72.1
各種窯	件数(件)	342	257	302
	人数(人)	342	257	302
	稼働率(%)	34.7	21.6	33.7
各種 アトリエ・ ロッジ	件数(件)	239	194	217
	人数(人)	1,710	1,237	1,370
	稼働率(%)	17.6	16.2	15.7
駐車場	件数(件)	87,731	60,976	51,574

・入場者数

(人)

		R5実績	R6計画	R6実績
総入園者数		503,747	500,000	325,612
	芸術の森美術館	242,899	170,000	123,103
	芸術の森野外美術館	60,040	60,000	52,740

野外ステージの平日利用促進のため、練習利用に限定して格安料金でご利用頂ける「練習割」制度を新設し、令和6年度4月～運用を開始した。未だ練習割での利用実績が無いため、野外ステージ及びアートホール利用者に向けても積極的にPRしていきたい。

美術展の入場者数が昨年度と比較して伸び悩んだことに加えて、野外美術館謎解きイベントの開始日が当初予定から延期となったことなどにより、目標の年間入場者数である50万人を大きく下回ることとなった。

A B C D

札幌芸術の森では、総入園者数が約33万人と、計画値を下回った。展示会の入場者数の伸び悩みや、野外美術館謎解きイベントの開催期間が当初計画よりも短くなったことが要因と考えられるため、より魅力的な展示会を実施するとともに、計画的に事業を進行するよう努めていきたい。

野外ステージの割引料金設定や、閑散期の冬のイベントとして「芸森かんじきウォーク」を開催するなど、集客に向けた工夫を行っている点は評価できる。

彫刻美術館では、本館の来館者数が計画値を大きく上回っている。多彩な展示会事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っている点は高く評価できる。

以上により、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

▽ 不承認 0件、取消し 57件、減免 562件、還付 16件

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを6事業開催した。

①スプリングフェスタ(札幌市立大学公開講座「札幌芸術の森 自然観察会」)

②芸森バースデー2024(涼やかにひんやり日本茶を・バースデー 札幌ジュニアジャズスクールミニライブ)

③野外美術館謎解きイベント「時紡ぐミュージアムの約束」

④札幌芸術の森 秋の観察会

⑤芸森かんじきウォーク

⑥芸術の森地区 雪あかりの祭典

恒例の四季イベントに加え、札幌市立大学との連携事業として、野外美術館を散策しながら園内の自然を観察する「札幌芸術の森 自然観察会(及び秋の観察会)」を、季節を変えて2回開催した。
また、株式会社ヘラルボニーに企画・制作を依頼し野外美術館での謎解きイベントを開催したほか、冬季の誘客促進として、開園当初より開催している「かんじきウォーク」を実施し、多くのインバウンド観光客も参加した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

展覧会事業		R5実績	R6計画	R6実績
本館 展示室	展覧会件数	6	6	6
	開館日数	259	245	245
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	295	295	295
本館入館者数		9,275	9,000	12,399
記念館入館者数		3,273	4,500	3,962

本館の入館者数は目標を超えることが出来た。要因として、多彩な特別展の展開が幅広い層の来館につながったことが考えられる。

その他事業		R5実績	R6計画	R6実績
本館展示 室利用	利用件数	1	0	1
	利用日数	5	0	17
本館 研修室利用	利用件数	0	0	1
	利用日数	0	0	1
本館 屋外利用	利用件数	1	0	1
	利用日数	8	0	1

その他事業では、昨年に引き続き、三角山小学校の総合的学習の時間での博物館利用の機会があった。
本館屋外利用は、雪像彫刻展の制作・展示である。

▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件

▽ 利用促進の取組

「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	【札幌芸術の森】 ▼ 広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。 ▼ ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルしたホームページの内容をさらに充実させた。また、季節にあわせてトップページのメイン写真を変更し、自然を含む芸術の森の魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 R6:1,824,987件 (参考)R5:2,602,959件 ▼ その他SNSによる情報発信の充実 X、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。 ▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸術の森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組内容確認を実施し、2025年2月26日にホームページに公開した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやXなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。事業ごとにターゲットを絞ったSNS広告を随時行い、効果的なコミュニケーションを試みた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数:21,140件 (参考)R5:32,143件 Facebookフォロワー数:1,339件 (参考)R5:1,245件 Xフォロワー数:5,015件 (参考)R5:5,014件 芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組内容確認を2025年3月21日に実施し、結果をホームページに公開した。 ▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAIに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実に行うよう準備を進めている。 ▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)	InstagramをはじめSNSの更新頻度を高め、イベントだけではなく日常的な園内の情報発信に努めた。また、定期的な広報会議によって園全体での外部の広報媒体の活用や連携したホームページ、SNSの発信を行った。 SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。	両施設とも、ホームページでの情報提供のほかSNSの活用によりイベントや施設の情報を発信している。 日々のイベントの状況や四季を感じさせる投稿など、工夫を凝らした情報発信をSNSで展開しているほか、マスコミへのニュースリリースによる積極的な情報提供に努めた点は高く評価できる。 札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布を継続するとともに、事業の特徴をふまえたSNS活用を行っている。 以上のとおり施設の魅力を伝える広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。

2 自主事業その他

▽ 自主事業

【札幌芸術の森】

▼札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2024

※音楽・舞台芸術事業再掲

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催18回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。

▼札幌美術展 マイ・ホーム(仮)

会期 令和7年1月18日(土)～3月9日(日) 44日間

入場者数3,473人

※▼展覧会事業⑤の再掲

札幌・北海道にゆかりの作家を紹介する「札幌美術展」の第17回。本展では「ホーム」の流動性や不安定さに着目し、暮らし、制度、ルーツ、コミュニティなど、「ホーム」を形づくる様々な要素をテーマとした作品を展覧した。出品作家は、葛西由香、小林知世、武田浩志、田中マリナ、長坂有希、南阿沙美、米坂ヒデノリの7名。

▼子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」

市内の小学校5年生児童を対象に、鑑賞活動の楽しさを体験する4つのプログラムを実施。活動前に各学校の担当教員を対象としたコース説明会を実施し、各コースの会場において事業内容及び事前学習に関する説明と、活動場所の下見・見学案内を行った。児童は、担当教諭が行う事前学習において鑑賞マナーと鑑賞の仕方を学び、活動当日は職員及び協力員(ボランティア)とともに作品を鑑賞した。対話を通じて多様な視点から作品を捉えることで鑑賞を深め、自らの感情や考えを言語化する機会を提供した。さらに、他者と意見を共有することで、多様性を受容する力の醸成を図った。

期間:令和6年4月17日(水)～令和7年2月28日(金)

会場:札幌芸術の森美術館、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、本郷新記念札幌彫刻美術館 本館・記念館
参加児童数:計13,509人

参加学校数:計188校

活動回数:計195回

【芸術の森美術館コース】82校84回

【野外美術館コース】85校85回

【子どもアトリエコース】6校6回

【彫刻美術館コース】15校20回

音楽・舞台芸術事業「札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2024」と同じ。

展覧会事業⑤と同じ

コース説明会は、職員の案内により実際の鑑賞体験も行ったことにより、担当教諭の活動内容に対する理解が深まり、事業の円滑な運営に寄与した。

「芸術の森美術館コース」では、特別展に合わせた鑑賞活動を行い、休館期間は美術館周辺の屋外彫刻作品と美術館収蔵作品を鑑賞することで学校の希望日に添って活動できた。

「野外美術館コース」では、常設の彫刻作品を鑑賞し、荒天時は作品パネルを用いた鑑賞、冬期はかんじきを履き雪中で行うなど、季節問わず活動を実施できた。

A	B	C	D
芸術の森のビュッフェレストランでは札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは、地元作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組を行った。彫刻美術館ではオリジナルグッズを販売するなど、施設に愛着を持ってもらえるような事業を行っている。 「ハロー！ミュージアム」事業においては説明会の内容を充実させる工夫が行われており、継続事業においてもより良い運営に向けた努力が重ねられているといえる。 その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			

「子どもアトリエコース」では、森美術館収蔵作品2点を鑑賞し、専用のワークシートを用いることで児童の表現力の向上を図ることができた。

「彫刻美術館コース」では、本館での企画展と記念館に常設している本郷新の作品を鑑賞し、多様な作品から鑑賞体験の幅を広げることができた。長年の継続事業により、作品鑑賞を通じて子どもたちが芸術文化に親しみ、創造力を育む機会を安定的に提供できている。

作品鑑賞においては職員または協力員(ボランティア)がファシリテーターとして「対話による鑑賞」の手法を用い、自らの気づきを言語化することで見る力を育むとともに、対話の中で個人の感じ方が異なることを知り、多様性を認め合う心を育む場となっている。

▼ レストラン事業 センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間はテイクアウトメニューを提供した。(利用者:7,906人)	道産を中心とした食材にこだわったレストランメニューは、幅広い世代に好評だった。
▼ 売店事業 ミュージアムショップPolaire を美術館が直接運営し、展覧会関連グッズ及び図録はもちろん、地域作家の作品やグッズの販売も行うことで、地域の美術文化を常に発信するという側面もあわせ持たせて運営している。令和4年にはオンラインショップを開設し、令和5年度からは地域作家の作品のオンライン販売も開始した。また、館蔵品をモチーフとしたオリジナルグッズも製作し、販売した。	展覧会の内容や取扱グッズのリサーチを行い、展覧会に関連したグッズを販売すると共に地元アーティストの作品やグッズの販売を行うことで来館者の楽しみを増やし、地元アーティストの活動支援にも繋がった。また、オリジナルグッズ開発では、所蔵品をモチーフに使用しグッズを通じて美術館作品の周知に繋げることが期待できる。
【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。 ▼ オリジナルコーヒーなどの商品開発、本郷新に関する受託商品の販売を行った。	来場者が持ち帰ることができる商品を用意することで、サービスの有形化を図った。
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 【札幌芸術の森】 ▼ 例年同様、令和6年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 業務委託等は市内の企業を活用した。	業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	令和6年4月～令和7年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答6,621件 (施設利用者アンケート374件、事業アンケート6,247件) 施設に対する総合的な満足度は95.4%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度より'とても良い'が増え、満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度については95.0%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と前年度よりは減ったものの、例年と同様の数値を維持できた。 いただいた意見や要望については、常駐業者も含め関係者に情報共有し、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式(通年)
結果概要	回答694件 来館者の接遇に対する総合的な満足度は約98.1%('大変良い'、'まあ良い'、'普通'の合計)、施設についての満足度は約98.6%('とても満足'、'まあ満足'、'普通'の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】トイレトペーパーを交換しやすい配置にしてほしい。 【対応】配置位置に配慮し、交換点検の機会も増やした。 【要望】寒かった。 【対応】室内温度を一日に複数回点検することを徹底した。 【要望】外国人向けに英語の説明があると尚良い。 【対応】記念館に関しては作品の解説英語標記対応済み。パンフレットも英語対応済み。 展示替えごとの対応や、英語以外の話者が増えていることへの対応方法を検討している。

札幌市の要求水準である5,000件を回収することができた。
令和6年度は美術館事業における5つの展覧会でアンケートを実施できたことが要因である。
また、WEBアンケートを取り入れアンケートの収集に努めているが、R6年度施設アンケートの回答14件と大きな効果は得られなかった。引き続き要求水準達成に向けて努力する。
職員の接遇及び施設については高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。

多くの方に回答を頂くことが出来た。
引き続き、来館者の期待に応えるように工夫していく。

A	B	C	D
芸術の森では、要求水準5000件を上回る件数の回収が行われたが、彫刻美術館の回収件数は要求水準800件を下回った。 しかしながら、両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」はいずれの施設も95%以上となっており、本市の要求水準を大きく超えている。 WEBアンケートの依頼方法をさらに工夫するなどして、今後も幅広く意見の把握に取り組んでいきたい。			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差(決算-計画)
収入	865,249	885,832	20,583
指定管理業務収入	836,404	857,716	21,312
指定管理費	688,251	707,712	19,461
利用料金	59,052	53,271	▲ 5,781
その他	89,101	96,733	7,632
自主事業収入	28,845	28,116	▲ 729
支出	900,249	953,596	53,347
指定管理業務支出	862,107	914,032	51,925
自主事業支出	38,142	39,564	1,422
収入-支出	▲ 35,000	▲ 67,764	▲ 32,764
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 35,000	▲ 67,764	▲ 32,764

▽ 説明

▼ 指定管理費について、今期は令和6年4月～令和7年3月までの光熱費高騰分の札幌市による補填を受けたこと、また賃金スライドにより増収となった。

▼ 利用料金収入は主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。野外美術館への入館者が好調で観覧料収益は増加したが、美術館展覧会が不調で入園者が減少したため、駐車場利用料収入が計画額を下回り、結果として利用料金収入全体の計画比減少の一因となった。

□

▼ その他収入には、講習会受講料、企業協賛金、他団体からの助成金に加え、実行委員会を構成して実施する事業に係る決算剰余金の配当が含まれる。文化庁助成金12,584千円の交付を受けたことで、計画を大きく上回った。

□

▼ 指定管理業務支出について、前年度に引き続き光熱費・燃料費の高騰により支出が増加したほか、実行委員会を構成して実施する事業の精算金の支出等もあり、全体として支出が増加した。

□

▼ 自主事業については、札幌美術展に係る資材費や人件費の高騰により、計画に対して収支が悪化した。

収入については、利用料金が総入場者数の減少により不調であったが、指定管理費の増額および文化庁助成金の獲得により、全体としては計画比で良化している。

支出においては、光熱費高騰を受け、支出は増加したが、これを補うために公的補助金や民間助成金の獲得を行い、収支の回復に務めた。

A	B	C	D
事業実施にあたり公的補助金や民間助成金の獲得に努めている点は評価できるが、実行委員会を構成して実施する事業の精算金の支出等により、計画比約30,000千円の赤字となった。			
安定的な施設運営を行っていくために、計画的な事業による収入の確保を図るとともに、経費削減に取り組んでいただきたい。			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ 情報公開請求については、札幌芸術の森において、6件あった。
- ▼ 住民監査請求については、札幌芸術の森に対し2件あったが、請求はいずれも棄却された。
- ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
【札幌芸術の森】 令和6年度の総入園数は、美術展が好調だった令和5年度に比べ伸び悩み、32万5千人余にとどまったが、一方で新型コロナウイルスの影響で減少していたアウトリーチ参加者数は段階的に回復しており、令和6年度は約14万人を数えた。 音楽・舞台芸術事業では、18回目となる「サッポロ・シティ・ジャズ」を開催し、一年を通じ多彩なライブを展開したほか、次世代育成を目的とする札幌芸術の森バレエセミナーや北海道グループキャンプでは、世界的な指導者を招へいし、国内外から受講生が集まった。 美術館では、漫画家・水木しげる展や、ロートレック展、西洋の写本展など、魅力あふれる展覧会を開催し、多くの方々にお楽しみいただいた。 工芸・工房事業では、工芸館にて、道内の工芸作家48名の作品を展示・販売したほか、陶芸・染織など7つの分野で講習会を開催し、約4千4百人が参加した。また、札幌市民交流プラザSCARTSにてアウトリーチ事業を行い、工芸分野の普及に努めた。 この他、安定的な施設運営を目的とし、令和6年4月より駐車場回数券料金改定、申込受付開始日変更、野外ステージ練習割引料金導入を行ったほか、工房施設では利用者との意見交換会を実施し、利用上の課題を整理した上で工房貸出の運用改正を行った。また、札幌市アクションプラン「芸術の森魅力向上事業」として、「札幌芸術の森魅力向上に向けたあり方検討委員会」が設置され、検討結果を総括した提言書を札幌市へ提出した。これに関し、指定管理者として同委員会への情報提供や分科会への出席等の協力を行った。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 本館、記念館とも前年度の入館者数を超えた。 展覧会事業では、特別展として、地域にゆかりのある現代作家が本郷新の作品とのコラボレーションする新作を制作し展示した「共振—本郷新＋北海道の現代アーティスト」や、第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞者の藤原千也展を開催し、美術館での展示の幅を拡げることが出来た。また、コレクション展「かく語りき本郷新『彫刻は詩の塊だ！』」や「彫刻の設計図リターンズ」、記念館での展示で、当館所蔵品を様々な切り口で紹介することができた。 「館長の土曜講座」や「彫美連続講座」は、毎回ほぼ満員となるまでの入場者があり、彫刻美術館のファン獲得につながった。 住宅街にある美術館であることから、「サンクスデー」での地域への感謝や、近隣の小中学校の鑑賞などで学校教育への協力を充実させた。 前年度に引き続き、「第75回さっぽろ雪まつり」に当館選定による雪像作品を制作・出品したことで、多くの人々に美術館の存在をPRすることができた。また、「雪像彫刻展」では過去最多となる雪像彫刻13基と滑り台1基を制作し、昨年を上回る入場者数を得た。 施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。	第5期指定管理の運営に係る基本方針に基づき事業を実施し、令和7年度に施行される屋内美術館及び野外美術館の観覧料改正、貸施設の利用料金改正にかかる定着を図り、収益や利用者サービスにおける成果をあげていく。 令和7年度以降、園内各施設の改修工事が予定されていることから、札幌市関係部署と適宜情報交換を行い、工事による利用者への影響を共有し、市民への適切な情報提供を行う。 昭和61年のオープンから40年近くが経過し、建物施設だけではなく外構の老朽化や荒廃が進んでいるため、これらについても札幌市と協議しながら安全で快適な空間の確保に努める。 また、団体利用者向けの無料送迎バスについては、ドライバー人件費等のコストが増加し、人材確保が困難になっていることに鑑み、有償化に向けた検討を進める。他方、来園者の交通インフラの確保が課題となっていることから、近隣地域との連携を図りながら、公共交通機関の確保に向けた取り組みを進めたい。 改めて、委託事業者および財団職員の人員確保が深刻な問題となっていることから、持続可能なサービスのための管理体制の見直しを、利用者ニーズとのバランスを図りながら進めていく。こうした観点からも、事業の推進に当たっては、当財団が管理運営している他施設をはじめ、民間組織や各種団体との連携を図ることで、芸術の森だけでは成し得ない企画の立案や施設の効率的な活用を図っていく。 本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を生かした魅力ある事業展開に引き続き努めていく。 第Ⅴ期指定管理の方針に基づき、以下の取り組みを行う。 ・本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開を行い、その現代的な価値を引き出しながら、多角的に顕彰していく。 ・札幌、北海道ゆかりの彫刻家や、彫刻を核とする立体表現の多彩な動向にも視点を広げ、彫刻芸術を中心とした芸術文化の振興を図る。 ・子どもや若年層への普及、鑑賞・学習機会の創出など、幅広く市民の美術館利用や芸術活動への参加を促し、「次世代の芸術家の育成」という本郷新の遺志の実現を図る。 ・市民に開かれた施設運営を行い、近隣の学校や文化・商業施設、関係団体などとの連携を推進し、広く市民に愛される美術館を目指す。 令和7年度は、本郷新と親交の深かった北海道出身の彫刻家山内壮夫の業績を改めて体系的にまとめる展覧会や、本郷新の生涯をマンガで紹介する書籍の出版と展覧会を行い、幅広く彫刻の魅力と本郷新の足跡を紹介する。 また、大学や学生との連携を通じて、美術館の新たな魅力を発信する機会を作る。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。 芸術の森の来園者数は要求水準を下回ったが、多彩な展覧会を実施し、また、アウトリーチ事業や育成事業など幅広い対象に向けた事業実施に努めた点は高く評価できる。また、本市が取り組む「芸術の森魅力向上事業」において情報提供等を積極的に行ったことも評価できる。 彫刻美術館では、彫刻賞関連の展覧会のほか、多彩な普及事業を開催することで、市民の文化芸術に対する興味を高め、理解を深める機会を数多く提供したことについて高く評価できる。 収支状況については全体としてマイナス決算であり、厳しい経営状況が続いている。民間助成金の獲得等に努めるとともに、安定的な施設運営を行っていくために事業内容の見直しや効率化を図り、経費削減に一層取り組んでいく必要がある。	芸術の森、彫刻美術館ともに、工夫を凝らした事業を数多く実施している。来場者の満足度も高いことから、今後も業務計画書に沿って魅力ある多彩な事業の実施に努めていただきたい。さらに今後は、初めて来場する市民や観光客にも施設の魅力が伝わるような広報によりいっそう力を入れていくことを期待する。特に芸術の森においては、個々の施設やイベントの情報発信だけではなく、芸術の森全体においてどのような体験が得られるのかを分かりやすく発信することで、更に事業効果が高まると考えられる。 経営面においては、収支改善のため、個々の事業に対する収支分析を踏まえて改善策を検討するなど、具体的な取組に努めていただきたい。 また、経理関係事務の再点検、適切な業務の記録と保存、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、職員の安全衛生管理、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告について、引き続き取り組むこと。